

名車 近鉄 2200系

近鉄 2200系と聞いて理解できる人は、本当の鉄チャンでしょう。昭和5年に開発され、約40年間近鉄路線で活躍した名車です。ただ、長期間活躍しただけでなく、戦前の早い時期、まだ近鉄となる前の『参急』（参宮急行電鉄）時代に、電車とは近距離を最高時速60km程度で走るものと理解されていたころ、上本町～宇治山田間 約140kmの長距離の直通列車を、最高時速110km運転をし、（速度計が装備されていなかった時代で、もっと早かったという証言が多い）SLなら重連でも苦しい生駒、青山両峠の33パーミルの急坂にも耐え、それでいて旧国鉄の2等車以上に採用されていたクロスシートと特別貴賓室付きを装備し、（写真の3両目、2枚扉のあたり）トイレ付き、車長20mの半鋼製6両編成という当時としては、画期的な電車をつくったのである。（子供のころ、『大阪に時速100キロ以上で走る電車がある』と聞いていてあこがれていた電車でしたが、昭和50年代にはすべて引退している）

この電車が、戦前の鉄道界の名車であり、『近鉄特急』の歴史の始まりであるといっても過言でないでしょうし、もっと大切なことは、近鉄2200系から始まって - JR80系（湘南電車） - 小田急SE車 - JR151系在来線『こだま』 - 新幹線0系誕生にと繋がっていった、長距離高速電車で世界に名を馳せた新幹線車両を生む礎であって、日本が世界に誇れる長距離電車運転の基礎を作った電車です。



写真は、雑誌のコピーです。